



# おばあちゃんのうどん

埼玉県越谷市立  
大沢小学校・3年  
高嶋 俊介

ぼくのおばあちゃんは、にいがたにすんでいます。夏休みになると、まい年あそびに行きます。おぼんになってみんな集ると、おばあちゃんはおうどんを作ってくれます。

おばあちゃんはまず、しお水を作りました。海水のしょっぱさと同じくらいにするんだよと教えてくれました。なめてみたらすごく、しょっぱくて、これでうどんができるのかなあと思いました。次にこなど、しお水をまぜたら、バラバラだったこなが、うどんまともってきてパンきじみたいになりました。少しきじをねかしてから、足できじをふんでのばしているのをみていたら、ぼくも、やってみたくなくて、ふんでみると、とてもやわらかくて気もちよかったです。すべすべになったきじをうどんの形にするには、見たこともないきかいをつかいます。きかいは、きじをのばすやくめをするローラーと、くしみたいなローラーがついていて、手でハンドルを回すと長いうどんのめんがっぱいでできました。なんときかいは40年前に作られたきかいでした。お母さんより年上のきかいだなんてすごくびっくりしました。っぱいできたきじを、大きななべでにて、大きなざるにあげるとキレイなうどんがっぱいできました。

うどんは、畑にとりに行った、なすやにんじん、れいとうしてあった「あおさ」などを天ぷらにして、ねぎとみょうがをききんでテールブルいっぱいにならべました。そしてみんなでうどんパーティーをしました。いつも食べるうどんとちがって、つるつるしていてとてもおいしかったです。自分でも作ってみたいけど、おばあちゃんは小学生の時から、自分で小むぎをひいてもらってうどんを作っていたのでぼくはかえません。だからまたらい年もおばあちゃんの作ったうどんをたべに行きます。

## 小学生奨励賞